



# 学 園 通

練馬区立大泉学園中学校

平成 29 年 12 月 25 日 発行 校長 晴佐久和彦

## 母校への思い

本格的な冬が例年よりも一足早く訪れている中、学園中でもインフルエンザに罹患する子ども達が出始めています。明日より冬季休業に入りますが、健康管理には十分留意したいものです。

そして、平成 29 年もまもなく終わろうとしています。この時期、学校では「年度末」を見据えて 1 年間のまとめを進めていきますが、その一環として、先日保護者の皆様には「学校評価アンケート」を実施させていただきました。同内容のアンケートは、学校評議員の皆様、生徒ならびに教職員も行いますので、集計した上で、次年度に向けての改善の方向も検討して、その結果を後日お示しいたします。

ところで、今月に入り約 100 名の 3 年生と個人面接練習を行いました。ふだんなかなか聞けない子ども達一人一人の考え方や思いを直接知ることの出来る貴重な機会となりましたので、そこで感じたことを少し述べてみます。質問ではふだんの学習の様子も聞きましたが、学校行事についても「どんな点が印象に残っているか、何を学べたか」といった趣旨で尋ねてみました。大切な体験学習の機会である各種の行事を通して、「仲間意識が高まった」「人間関係の重要さがわかった」「準備の大切さに気づいた」等の答えがあり、それぞれ良い学びをしてくれたなど大変嬉しく感じました。また、「3 年間通った大泉学園中学校はどんな雰囲気のある学校ですか」といった質問もしてみました。この質問にも様々な思いを述べてくれましたが、「生徒会中心に全校であいさつに取り組んでいる」「先生が生徒のことをよくみてくれていて、親しみが持てる」「協力し合って行事に取り組んでいる」「生徒同士の仲が良く、とても明るく楽しい」といった趣旨の返答が多くありました。自分の母校に良い印象をもてるということは幸せなことです。在校生の皆さんも、1 年後、2 年後にそれぞれ同じように答えていけるよう、日々前向きに学校生活を過ごしてもらいたいと思います。

「母校」ということで、私自身が今も一番印象に残っているのは、四十数年前に卒業した小平市の中学校です。学園中でいうと 13 期の方々と同じ代となりだいたい昔の話ですが、当時の学校生活での様々な場面が鮮明に思い出されます。その頃は木造 2 階建ての古い校舎に通っていましたが、卒業後しばらくして、鉄筋の校舎に建て替えられました。過日、久しぶりに訪れる機会があったのですが、何か違う学校のように少し寂しい思いがしました。その点、学園中は開校以来の鉄筋校舎が使われていて、ご年輩の卒業生の方が訪れても懐かしく感じられるのではないのでしょうか。校舎は長く大切に使いたいものですが、いずれ建て替えとなる日も来るでしょう。しかし、皆さんには学園中への思いはいつまでもしっかりと心に残してほしいと思います。この学園で出会い、ともに学び、ともに過ごす日々は一人一人にとって掛け替えのないものなのですから。

3 年生面接練習の話題から、「母校愛」へと話が広がりましたが、年が明けると特に 3 年生は進路決定へ向けての日々が続いていきます。大変さを感じることもあると思いますが、家族、先生、そして仲間の応援を信じて、ぜひ乗り越えていってほしいと願っています。

# いじめ一掃プロジェクト

練馬区では、11月をいじめ一掃取組月間としており、毎年、「いじめ一掃プロジェクト」として、様々な取り組みを行っています。

本校では、「練馬区いじめ防止シンボルマーク」への応募の他、保護者・地域の皆さまから、いじめ撲滅に向けたメッセージ、標語の募集をしました。ご協力くださった皆さま、ありがとうございました。お寄せいただいたものの一部をここで紹介させていただきます。

なお、「シンボルマーク」や、「標語」は、生徒会の「学園中人権宣言」とともに校内に掲示し、いじめ撲滅に向けた意識啓発に活用させていただいています。



学園中人権宣言

## ～メッセージ～

まず、自分自身のことを好きになってみてください。そうすると、人の良いところが見えてくると思います。そして相手の良いところを口に出して伝えてみてください。(必ず相手の人はうれしくなります。)

人は必ず、よいところがあるはずです。笑いがあるところにいじめは存在しないと思います。 1年 保護者

学生時代の思い出は明るく楽しいものであってほしい。

人を傷つけたり、人に傷つけられたりする事は決して楽しい思い出になりません。

悔し涙やうれし涙はあっても、辛い涙はイヤですよ！ 2年 保護者

何気ないひと言で傷ついてしまった人、悩んでいる人の心に寄り添うことができれば、最悪のことにはならないと信じています。 3年 保護者

「これくらいなら平気だろう」と勝手に思い込んで相手を傷つける発言・行動が多いような気がしています。(世の中全体で) 自戒の意味も込めました。 1年 保護者

## ～標語～

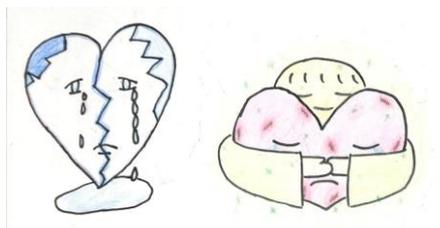
わたしの目 見てみぬふりがいじめかも…

遊びといじめの境界線 感じ方は人それぞれ

なにげない、そのひと言がつらいのよ…

その行為 自分がされて嬉しいか

やすらげる 場所にしようよ 学園中



『いじめ防止シンボルマーク』応募作品の一部

## 中学生の『税についての作文』・『税の標語』

社会科では、夏休みの課題として、3年生が『税についての作文』、2年生が『税の標語』に取り組みました。先日、受賞者が決定し、表彰式が行われました。

『税についての作文』で税務署長賞を受賞した山口さんは、12月22日（金）に、練馬西税務署で「一日税務署長」体験をさせていただきました。受賞者は以下の通りです。

○練馬西納税貯蓄組合連合会・練馬西税務署 中学生の『税についての作文』

練馬西税務署長賞	3年C組	山口	春
練馬西納税貯蓄組合連合会会長賞	3年A組	今田	力
練馬西納税貯蓄組合連合会優秀賞	3年A組	山崎	陽菜



○練馬西関税会『税の標語』入選作品

優秀賞 「コンビニやネットで納税 便利だな」	2年B組	竹内	航平
佳作 「消費税 素敵な未来を造る種」	2年B組	玉腰	紬
佳作 「老後のために 未来のために 消費税」	2年E組	大岩	洗友



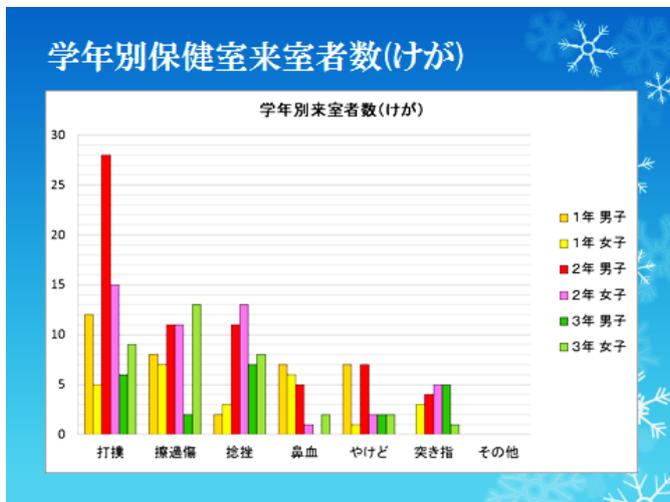
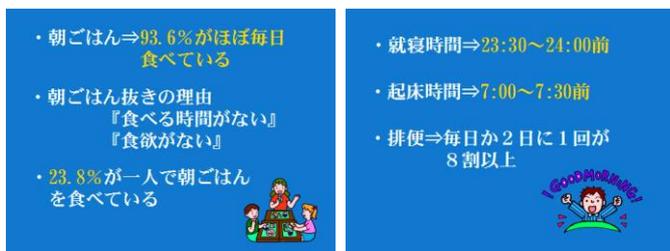
## 学校保健委員会を開催しました

保健主任 池田 博子

12月14日（木）、今年度の学校保健委員会を開催しました。学校保健委員会は、学校の教職員、学校医、学校薬剤師、保護者を構成メンバーとし、子どもたちが生涯を通して健康で安全な生活を送ることができる力をつけるため、学校における生徒の健康の問題を研究協議し、健康づくりを推進する組織です。当日は、学校医の北島先生（内科）、榎本先生（歯科）、学校薬剤師の福原先生、そしてPTA役員の方々にご参加いただきました。

会では、今年度の学校保健活動についての報告や、定期健康診断の結果、各月の保健室利用状況、また、生徒の食の傾向等をご報告し、その後、意見交換の時間をもちました。

子どもたちの健康のために、学校でもこれからも様々な活動をしていきます。ただ、子どもたちを取り巻く様々な課題は学校の中だけでは解決しません。学校・家庭・社会のそれぞれの立場において相互理解を得ると共に、協力して子ども達の心身の健康づくりを推進していきたいと考えております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



当日使用した資料より・・・

2年生男子の「打撲」による来室が多いことが分かります

# 本からの挑戦状

図書委員会担当 佐藤 ひろみ

後期のイベント「本からの挑戦状」が終わりました。クイズを解きながら、本に親しんでもらおうという企画です(クイズはもちろん図書委員の手作りです)。規定の正解スタンプを得ると、個人貸し出しカードがもらえる特典があります。すでに前期で手に入れている参加者たちは、貸出冊数が増えるゴールドカードめざしての挑戦です。試験後の息抜きか、三年生の姿が多かった気がします。参加者にとっては楽しい、そして企画した図書委員たちにとっては忙しくも充実した時間となっていました。



## 3年 家庭科 保育実習

家庭科 深津 肖子

家庭科の授業では、3年生で保育分野の学習を行っています。しかし、多くの生徒は、日常生活で幼い子とふれあう機会が少ないため、学校近くにあるグローバルキッズ大泉園のご協力を得て、実際に幼児とふれあう体験学習を行いました。この保育実習を通して、小さい子に苦手意識をもっていた生徒も、自分から関わろうとする気持ちをもったり、小さい子を理解するきっかけとなったと思います。また、自分が幼かった頃を思い出し、自分も周りにいるたくさんの人との関わりの中で育ってきたのだということを理解してもらえればと思います。

保育実習に行く前に、家庭科の授業では、幼児のためのおもちゃ作りを行いました。当日は、自作のおもちゃを持って、保育実習に行きましたが、自分たちが作ったおもちゃで楽しそうに遊ぶ園児の姿を見て、生徒も嬉しそうにしていました。

将来、生徒達は様々な立場(親・職業・近所など)で小さい子と関わっていくことになります。今回の学習が、『子ども』への理解を深めるきっかけとなってくれることを願っています。

生徒の感想より . . .

知育玩具が自分が思っていたのと違う使い方や、おもちゃで家を作るときにもいろいろな場所に家具を置いていたりして、子どもの発想力をすごいと思った。子どもたちがいつも笑顔で、私も自然と笑顔になれた。子どもたちと遊ぶことはとても楽しかった。

自分たちの作ったおもちゃが取り合いになるほど人気で嬉しかった。一緒に遊べて良かった。

自分から積極的に話しかけたり、遊んだりすると、幼児も笑ってくれて心を開いてくれたような気がした。

